

Catch the eye 2014年6月

2014/6/3
(火)

象鼻杯

雨の匂いがした。窓をみると、雨が降りだしていた。この数日の真夏日、陽射しをみるだけで、頭がくらくらした。雨でひといき。地下鉄車内の広告に紫陽花の写真。宇治三室戸寺の観光情報だった。紫陽花の広い庭園がある。一見の価値あり。

でも三室戸寺といえば、象鼻杯。何年か続けて通った時期がある。このなんとも大人な愉しみ、いつ思い出しても顔が緩む。数年前から7月初めの金曜日限定となった。今年は7月11日。ウィークデイの朝からお酒を飲めるといふ人は限られる。そういう立場の人は足を運んでみてはいかが。なかなか味なものです。

2014/6/6
(金)

便り



梅雨らしい曇り空、時々ばらつく雨。合間にほんの晴れ間。梅雨明けまでの一ヶ月、気持ちだけでも清々しく乗り切りたい。というタイミングで山形から届いた郵便。手紙と一緒に数枚の写真。今年も無事に終わった雛人形、甲冑などの展示の様子。自宅を開放してみなさんに見てもらおう恒例の行事。高齢の一人住まいにはこれがいい励みになっていると、いつかの手紙に書いてあった。

今年の展示を数日前に終えて、さっそく手紙と写真を送ってくれたよう。これまでの手紙の書き出しはフルネームの先生づけだったけど、今回は下の名に先生づけになっていた。文面の締めくくりに書いてある先方の名前も下の名前だけになっていた。そう、この感覚。こういう風に間柄の意味あいを変えて、深めていく働きかけ。講師と受講者という関係をこえて、こちらから最初に便りを出したくなった所以。ほんと、いい人だなあ、と清々しい気分。

2014/6/9
(月)

五月晴

意外にも今日も晴れた。昨日も晴れて、梅雨にしては湿度も低く、しのぎやすい日曜だった。五月にあと戻りしたような日和だった。明るい陽射しの外からの風に、レースのカーテンが、映像でしか見たことのないオーロラのような縦波をえがいて、ふわっと室内におし返された。その光景だけで十分、五月晴の恩恵にあずかった梅雨間の日曜。

2014/6/11
(水)

カエル

会社員の終業時間にあわせように雨が降りだしてきた。先日グランフロントの庭を通ると、カエルの鳴き声があった。軽い声と重い声。少なくとも2種類はいそう。人工的な小さな庭ながら池もあり、一年経って、自然感がそなわってきた。

2014/6/13
(金)

街の光景

昨夜から気温が低い。今日の予想は大阪で26度。これはかなり過ごしやすい。雨も今日は降らなさそう。梅雨の合間、仕事するにも遊ぶにもいい日和ではある。そう思いながら中津駅から事務所へ向かう途中、建物の奥まった一角になんともやるせない光景を目にするのだった。数週間前ぐらいから、そこでちよくちよく見かけるホームレスの人。それが女性というのが、心にとまる。

年齢の頃は40歳前後、まだ若い。顔は理知的にすら見え、なんで・・・という気持ちが自然にわいてくる。何がどうして、どうなったのか、想像さえできない。ただただ、言いようのない哀しみのような感情だけが心にひろがる。同性で、まだ若くて、本当ならこれからこそ人生の本番に入りはずなのに・・・。未来が閉じている感、それが哀しみの元になっているのかもしれない。

2014/6/17
(火)

未来の心身

今日は朝から曇り空、予報では夜には雨。かさついていた紫陽花にはさいわい。紫陽花は丈夫なのか、街なかでもよく見かける。よく見かけるといえば、肥満の人。最近ではアメリカ人のような体型の人を見るようになった。ジャンクフードがその元凶だとはっきり言った専門家のことをラジオのトピックで紹介していた。

昨日の新聞だったか、培養肉の研究も進んでいるらしい。スマホもジャンクフードも、今はまだ自分の意思で採否が可能。でも、今の子どもが大人になる頃、そしてさらにその先には・・・。人間の心身の変わり様を想像するとそれは闇の中。想像を絶する。

2014/6/20
(金)

クチナシの花



梅雨の晴れ間が続いていた大阪、明日は雨の予報。今朝、クチナシの花に気づいた。地下鉄中津駅をあがった道路ぞい、いつもは葉っぱばかりで、気にもとめず通り過ぎている。その中に一番のりで咲いた白い花。その白さが目をひいた。クチナシのあのふくよかな温かみのある白さは特別。絵に描いてみせるのは至難の業と思う。

最近わかったこと、化粧品のフェイスパウダー、ピンからキリまであるが、名だたる高級品は、その人の顔の色に自然に馴染み、クチナシの花のように温かみのある色合いを醸し出す。わざとらしくなく、自然になじむ良さ。上質とはそういうものなのかもしれない、すべてにおいて。

2014/6/24
(火)

道

昨日は雲が多かった。今日はずっと陽がさしている。昨日も今日もそこそこ暑い。こういう暑い時にこそ、hotなものが体にいいということで、昨日のお昼はカレーを食べた。本町の行列のできるカレー専門店。カウンターだけの小さなお店。昨日タイミングよく初めて入ることができた。開店しているより仕込みで閉じている時間の方が長いと評判。頑固そうな中年の店主かと思いきや、若く好青年の印象。

この店主がドアを開け、並んでいるお客さんたちにすまなそうに開店を知らせ、店内へ招き入れた。中では女性スタッフ二人が待機。カウンターの端から順番に座るお客に氷いりの水をおき、注文をとっていく。その間、店主は本番前の俳優のように、舞台の袖で息をととのえている感じに見えた。女性たちが注文を書いた小さな赤い紙を定位置の料理台に並べる。

並べ終えたところで、店主が台に近づき、順番と注文の内容を確認。しばしの間。そして徐に、声には出さないが、さあこれから始める、という感じで、皿にライスを盛り始めた、なだらかな山型に。注文は手際よく順番に客前におかれた。店に入ってから注文が目の前に置かれるまでの流れが美しい。茶道ならぬ、カレー道のような趣き。道を定めた人の姿あり。

2014/6/26
(木)

締め切り

今日も大阪は晴れた。でもそろそろ梅雨本番、7月もまもなく。こうして7月と書くと、いよいよ今年も佳境に入る感。刻々と時間は進む。二日前だったか、日経に時間管理の話題が載っていた。『締め切りを守るのは当然』と漫画家が自身の時間管理法を紹介していた。

そういえば、思い出す。ある記念誌に原稿を頼まれた時、期限前日にファイルを送信したら、担当者からすぐに返信がきた。締め切り前に提出してもらえたなんて、と。ひよっとすると、15名ほどいた執筆者の中で一番乗りだったかもしれない、あの感激ぶりは。

対外的な締め切りは当然として、今年後半の始まりを前に、わたし事に定めた締め切りも守らなければと思う6月末。

2014/6/28
(土)

読ませる文

昨日は夜に雨が降った。今朝は雲が多く、午後からは荒れるとの予報。そのせいかいつもの土曜より地下鉄車内の乗客は少なかった。席も十分空いていた。昨日の夕刊を出して読む。いつもは素通りする、「十字路」に目がとまった。『デフレ脱却論のたそがれ』。

最後までしっかり読んだ。読ませた。まず文章がうまい。伶俐な人物像が浮かんだ。ものごとの本質はつけても、それを人に唸らせるようアウトプットするのはまた別の才能。ひよっとすると文学的な素養のある人なのか。肩書はカタかったが。